

小学校2年 道徳の時間 学習指導案

「約束や決まりを守る」

日 時：平成 年 月 日（ ）

場 所：

授業者： 教諭 上村 孝直

1 主題名

みんなが使うもの 4－（1）規則尊重・公德心

資料名（「森のけいじばん」：文溪堂「2年生のどうとく」）

2 主題について

（1）ねらいについて

内容項目4－（1）「約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切に使う。」は、児童が生活する上で必要とされる社会規範を守るとともに、公德心を持ち、それらの精神を日々の生活の中に生かしていく児童を育てようというねらいがある。

わたしたちは、多くの人とかかわって生活している。互いに気持ちよく生活するためには、相手に迷惑をかけないことが大切である。身の回りにはたくさんの公共物があり、生活上さまざまな約束やきまりがある。公共物を大切に使うことや、約束やきまりを守ることは、相手のことを考えるだけでなく、自分が社会の一端を担っているという自覚に基づく行いである。

公共物や施設を私物化するような行為、きまりを守ろうとする意識の低下など、社会ではさまざまな問題が取り上げられている。この時期に、規則を尊重することや公德心の大切さについて、心情を深めることが大切である。

本主題は、生活科の「学校探検」・「まち探検」における、運動場や公園での遊び方の学習や、公共物の扱い方、公共施設の利用の仕方と関連させることができる。それを、日常生活においても、約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にしよう、という態度の育成につなげていくことができると考える。

（2）児童の実態について

本学級（男子〇〇人・女子〇〇人：計〇〇人）の実態は、次の通りである。

<アンケート結果>

問1 「みんなで使う物」と聞いて、あなたはどんな物を思い浮かべますか？

（多い答え）体育倉庫のボール、トイレのスリッパ、パソコン室のパソコン など

問2 それを使うとき、あなたが気をつけていることはありますか？

（多い答え）ちゃんとかごの中になおす、次の人のために並べる など

問3 「みんなで使う場所」と聞いて、あなたはどんな場所を思い浮かべますか？

（多い答え）運動場、体育館、トイレ、公園 など

問4 そこを使うとき、あなたが気をつけていることはありますか？

（多い答え）きれいに使う、きちんと後片づけをする など

問5 「みんなで使う物や場所」を、あなたやみんなは、ほかの人のことを考えて、きちんと使えていますか？

(あなた)よくできている…○人、だいたいできている…○人

(みんな)よくできている…○人、だいたいできている…○人、あまりできていない…○人
問6 どんな時に「できていない」と思いますか？

(多い答え) トイレのスリッパが並んでいないことがある。

ボールをちゃんとなおしていない人がいる。 など

<考察>

子どもたちは、体育倉庫のボールなどみんなで使う物を大切に扱わなければならないことや、公園などの公共の場ではきまりを守って行動しなければならないことは理解している。しかし、実際には自分のことを優先させ、自分勝手な行動をとってしまうことも多い。行為の裏にある心情に目を向けさせ、みんなで使う物を大切にすることや、約束やきまりを守ることは、相手に迷惑をかけないで互いが気持ちよく過ごすために大切であることを考えさせたい。

(3) 資料について

さるたは、誕生日に自転車をプレゼントしてもらうことになる。喜ぶさるたが、そのことを森の掲示板に書いたため、さるたの自転車のことが、あっという間に森じゅうに広まった。さるたは、プレゼントのことは森の掲示板に書くべき内容ではなかったと両親に諭され、一緒に消しに行くことにした。

さるたの、無邪気だが、自分本位な気持ちは、この期の児童にとって共感しやすいであろう。さるたの気持ちに共感させ、みんなで使う物は、相手のことを考えて、大切に扱わなければならないことを考えさせたい。

(4) 指導にあたって

低学年の段階では、規範意識をしっかりと身につけさせることが大切である。そこで、導入では、本時のねらいとする価値をしっかりととらえさせる。展開前段では、さるたが自分の行いについて考える場面を中心発問とすることで、ねらいとする価値についての理解を深める。また、自分のことを知らせるうえで、適切な手段であったかどうかを考えさせることは、情報モラルに関して指導を行ううえで効果的である。展開後段では、あえてできなかったことを問うことにより、より深く自分を振り返らせ、これからの実践意欲を高めたい。その際、さまざまな場面を取り上げることで、児童同士の経験の共有を図り、「自分にもそんなことがあった。」というように、身近なこととしてとらえさせたい。

(5) 情報モラル教育の視点から

ア 本時は、モデルカリキュラムの目標「1. 情報社会の倫理」、項目「a-1: 約束や決まりを守る」および項目「b-1 人が作ったものを大切に作る心をもつ」との関連を重視して展開する。

イ 低学年段階における、情報の公共性や、利用時の約束やきまりといったことをしっかりと理解させることが、社会における情報モラルの基礎となることを意識して指導にあたる。

(6) 人権教育の視点

ア 自分の考えを、自信を持って発表できるような支持的風土づくりに努める。

イ 他の人の意見も尊重しながら、ともに学習しようとする態度を育てる。

3 本時の学習 (1 / 1時間)

(1) 目標

約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にしようとする態度を育てる。(4-(1)規則尊重・公德心)

(2) 展開

過程	時間	学習活動	○主な発問と児童の反応	教師の指導と評価	備考
つかむ	5	①みんなが使う物や場所とその使い方を発表する。 めあて みんなが使う物やみんなが使う場所の使い方を考えよう。	○みんなが使う物には、どんな物があるか。また、どこで、どのように使うのか。 ・体育倉庫のボール。運動場で、みんなで仲よく使う。 ・トイレのスリッパ。あとで使う人が気持ちよく使えるように、きれいにそろえる。	○みんなで使う物の写真を数枚用意し、提示する。 ○街頭にある掲示板上に触れ、大切なお知らせを知らせるための物であることを確認する。	写真 (体育倉庫のボール、トイレのスリッパ、委員会の掲示板、街頭の掲示板)
さぐる	20	②「森のけいじばん」を読んで話し合う。	○森の掲示板上に自分のことを書いたとき、さるたはどんな気持ちだったか。 ・うれしいな。みんなに知らせたい。 ・自慢できるぞ。	○掲示板本来の使い方を考えずに、自分のことを知らせたいさるたの、自分本位な気持ちに共感させる。	資料 (紙芝居)
			○森のみんなに話が広まっていると聞いたとき、さるたはどんな気持ちだったか。 ・みんなに知ってもらえて、うれしい。 ・お父さんとお母さんは、どうして困っているのだろう。 ・そんなに広まるなんて大変なことをしてしまった。	○みんなに知ってもらえたうれしさと、予想以上に広まってしまった戸惑いの双方の気持ちに共感させる。	
			○お父さんとお母さんから森の掲示板上の話聞いて、さるたはどんなことを考えたか。	○自分本位な行動が、森のみんなに迷惑をかけてしまったことに共感させる。	ワークシート

			<ul style="list-style-type: none"> ・みんなには関係のないことを掲示板に書いて、迷惑をかけてしまった。ごめんなさい。 ・自分だけにしか関係のないことを書いてはいけなかったのだな。消しに行こう。 	○情報モラルの観点から、個人情報が発するのにふさわしい場面であったか、発する際のきまりを守っているかについて確認する。	
深める	15	③これまでの自分を振り返り、みんなでする物や場所をあまり考えないで使った経験を話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○みんなで使う物や場所を、もう少し考えて使えばよかったと思ったことはあるか。 ・農具倉庫のスコップやかまを使った後、整とんせずに置いてしまった。きちんと片づければよかった。 ・友達と遊んでいた時、お菓子の袋を道路に捨ててしまった。ちゃんとゴミ箱に捨てればよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートを用意し、自分の経験についてじっくり考えさせる。 ○多様な場面を選び、発表させる際の指名に生かす。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評価</p> <p>これまでの自分を振り返り、みんなの物や場所の使い方を反省することができたか。(発表・ワークシート)</p> </div>	振り返りシート
まとめる	5	④教師の説話を聞く。	○教師がこれまで経験したことや、集めた情報などを紹介する。	○マイナス面だけでなく、約束やきまりを守ることで、有意義な経験ができたことも紹介する。	

4 モデルカリキュラムの位置づけ

情報モラル	道徳、各教科・特別活動 他
a1：発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ。	道徳 物を大切に「森のけいじばん」 4-(1)規則尊重・公德心「約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にする。」(本時)
b1：情報に関する自分や他者の権利を尊重する。	道徳 物を大切に「森のけいじばん」 4-(1)規則尊重・公德心「約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にする。」 図工 かきたいもの、つくりたいものを見つけて「見て、見て、おはなし」 友だちと絵を見せ合いながら話し合い、お互いのよさを認め合う。

c1 : 情報社会でのルール・マナーを遵守できる。	<p>道徳 明るくあいさつ「おじいさんこんにちは」</p> <p>2-(1)礼儀「気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などを心がけて、明るく接する。」</p>
d1 : 情報社会の危険から身を守るとともに、不適切な情報に対応できる。	<p>道徳 思い切って「ピンクいろの花」</p> <p>1-(3)善悪の判断・勇気「よいことと悪いことを区別し、よいと思うことを進んで行う。」</p>
e1 : 情報を正しく安全に利用することに努める。	
f1 : 安全や健康を害するような行動を抑制できる。	
g1 : 生活の中で必要となる情報セキュリティの基本を知る。	
h1 : 情報セキュリティの確保のために、対策・対応がとれる。	
i1 : 情報社会の一員として、公共的な意識を持つ。	